2023 年度 個人研究実績・成果報告書

2024 年 4 月 22 日

所属	人間社会学部	職名	准教授	氏名	佐藤 哲彰
研究課題	学生の授業における内発的動機への外的動機付けのアンダーマイニング効果について等				
研究キーワード	動機付け、内発的、ボラン ティア、	当年度計画に対す る達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を 達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連する SDGs項目	4. 質の高い教育をみん なに	8. 働きがいも経済成長 も	16. 平和と公正をすべて の人に	17. パートナーシップで 目標を達成しよう	

1. 研究成果の概要

今期は、金銭報酬のアンダーマイニング効果とナッジの関係について、利他性からくる幸福度の向上という視点などからレビューワークを行った。Deci & Ryan(1985), Ryan & Deci(2000)などは、金銭報酬が本人行動の自律性を脅かすことによって、かえって望ましい行動を阻害することをもとに、モチベーション付けの柱のひとつとして「自律性」の重要性を挙げた。

2008年に発表されたDunnらの複数の実験では、与えられたお金を自分のために使うよりも他人のために使ったほうがより幸福度が高いこと、それは金額や所得の大きさ如何に関わらないことが示された(Dunn, Aknin and Norton, 2008)。人間の利他性やそれに基づく行動については近年の行動経済学においても多数指摘され、心理学の実験としても確認されている(Fehr & Rockenbach, 2003; Rand et al., 2012; Moche, et.al, 2020)。実際に、所得が上昇しても幸福度は上昇しないこと(Easterlin, 1974)がかねてより「イースタリンの逆説」として広く議論されており、このような考察と整合的である。

なぜ「自律性」が寄付のモチベーションの一つの柱たり得るのか？ひとつには「その人は道徳的に良い人だ」と社会的に認知されることが関わっている可能性が指摘されている(Wu & Jin 2020)。しかししばしば実際に匿名の寄付が行われており、社会的認知がかえって内発的動機を弱める可能性があることが指摘されている(Savary & Goldsmith 202)。

ではなぜ匿名の寄付が行われるのか。ひとつの考え方として、利他的行動による幸福度の上昇が挙げられる。「ニコマコス倫理学」において、アリストテレスは人間には「共同体への貢献を喜ぶ感情」を持つことがある、と説いたとしている。これは最高度の幸せだが、学習と体験によって後天的に習得する「徳」(アレテー、卓越性)であり(同1巻13章、2巻1章)、それは強制的であってはならないとしている(3巻1章)。

この西洋的「徳」(希アレテー; 英 virtue 等)は古代西洋哲学からキリスト教神学、アダム・スミス「国富論」の基盤となった同「道徳感情論」の中心的テーマとなっている。同書はどんな人間の性質が社会に秩序をもたらすかを中心テーマとしているが、「徳」を「他者から受け入れられたい」という願望を通して成立するものとして描いている。すなわち、まず人間には他者に「共感」する能力があり、そのため他人に是認されたいと感じたいという願望がある。その是認願望は、様々な社会経験を通じて法則性を求めるようになり、胸中に公平な観察者(裁判官)を設けて行動規範を作るようになる。この裁判官にいつも従うわけではないが、自分の考え方や行動に強い影響を与えるようになる、としている。この考え方は、「他人によく見られたいから」という利他的動機が内面化・自律化したものと考えられる。

このような考え方は現代や非西欧社会でどの程度通用するのかが問題となるが、Smith et al. (1989)は共感性が高いほうが利他的行動を行いやすいことを示した。Barclay (2010)やArnocky et al. (2017)は、男性は利他的な方が異性のパートナーを得やすいが、女性にはそのような関係がないことを示したところである。

2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【論文（査読あり）】

なし

【著書・論文（査読なし）】

なし

【学会発表等】

なし

3. 主な経費

文献購読のための機器購入、研究会費、文献レビュー用の書籍購入費など。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

生活経済学会の企画担当理事の業務を行った。

（本文は2ページ以内にまとめること）